

新刊案内



「あ〜ん ぱくっ」

せき ゆうこ

「あかいありの
ぼうけんえんそく」

かこ さとし

なぜ八幡神社が日本でいちばん多いのか -- 島田裕巳
 愛国・革命・民主 ----- 三谷博
 悪いけど、日本人じゃないの ----- 日向ノエミ
 まだら
 キリンの斑論争と寺田寅彦 ----- 松下貢(編)

田舎暮らしの元気な食卓 ----- 丘みつ子
 アートの地殻変動 ----- 北川フラム
 新釈 にっぽん昔話 ----- 乃南アサ
 ディア・ライフ ----- アリス・マンロー



「言葉」

2012年に本屋大賞を受賞した三浦しをん『舟を編む』は、辞書編集部を舞台に言葉という絆で織りなされる人間模様を描いた小説でした。今回は言葉への情熱があふれる本を紹介します。

田澤耕『〈辞書屋〉列伝―言葉に憑かれた人びと―』。ドラマのない辞書はない。世界最大の「オックスフォード英語辞典」、日本初の国語辞典である「言海」、カタルーニャの地位向上を目指した「カタルーニャ語辞典」、メキシコの不毛の開拓地でやむにやまれず作られた「西日辞典」など多くの辞書の編纂に携わった〈辞書屋〉たちの長く苦しい道のりを生き生きと描きます。

山東功『日本語の観察者たち―宣教師からお雇い外国人まで―』。日本語にはLとRの発音の区別や格変化・性・数の別がない！驚きながらも辞書や文法書を作り、海外に日本語の種をまいた彼らに光を当てます。外からの視点は、国内の研究者たちに日本語を相対化して探究する動機を与えることにもなりました。

クレア・マリイ『おネエことば「論」』。いまや当たり前のようにメディアで使われるようになった「おネエことば」。一体どこからやって来たのか？そして、その正体とは何なのか？オーストラリア出身の言語学、ジェンダー論の専門家が迫った本格的な研究本です。

4月の休館日

7日(月)、14日(月)、21日(月)、25日(金)、
28日(月)

開館時間

火～金曜日 午前10時～午後7時
 土・日曜日、祝日 午前10時～午後5時
 図書館は無料でご利用いただけます。

お知らせ

図書館の東玄関に図書返却ポストを設置していますので、開館時間外や休館日に本を返却する際にご利用ください。ただし、大型絵本やCD、DVDなどの壊れやすい資料は、本体やケースの破損防止のため、開館中にカウンターへ返却していただきますようお願いします。

